

## 令和3年度第2回経営会議 会議概要

### 1 開催日時

令和3年9月28日（火） 13:30～15:30

### 2 場 所

本部棟3階 大会議室

### 3 出席者（委員12名中9名出席）

学外委員：平賀委員、谷村委員、木村委員、菅原委員

（欠席：山本委員、床次委員、菅委員）

学内委員：千葉委員、鈴木委員、宮野委員、石堂委員、狩野委員

その他、小野特別顧問、各本部長、各学部長、各室長及び関係職員が出席。

### 4 審議事項及び審議結果

#### (1) 学長選考会議委員の選出について

当該委員の選出について宮野委員から説明し、選出について原案のとおり承認された。

#### (2) 公立大学法人岩手県立大学組織規則の一部改正について

#### (3) 公立大学法人岩手県立大学中期計画策定委員会規程の制定について

組織規則の一部改正について、及び中期計画策定委員会規程の制定について、それぞれ宮野委員、狩野委員から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

### 5 その他

#### (1) 令和3年度における新型コロナウイルス対策の状況等について

本学の新型コロナウイルス対策について、事務局から資料に基づき報告した。

#### (2) 岩手県立大学の就職内定状況について

令和2年度卒業生の就職状況（令和3年3月31日現在）及び令和3年度卒業予定者の就職内定状況（令和3年8月31日現在）について、事務局から資料に基づき報告した。

#### (3) 令和2事業年度業務実績に関する県評価委員会の評価結果について

県地方独立行政法人評価委員会へ提出した「令和2事業年度に係る業務実績」の同委員会の評価結果について、狩野委員から資料に基づき報告した。

#### (4) 公立大学法人岩手県立大学第三期中期目標期間終了時見込業務実績評価結果について

県地方独立行政法人評価委員会へ提出した「第三期中期目標期間終了時見込業務

実績」の同委員会の評価結果について、狩野委員から資料に基づき説明した。

(5) その他

本学関連新聞記事の紹介、配布を行った。

## 6 意見交換

本県高校生の4年制大学への進学率向上に対する県立大の役割と取り組みについて、意見交換を行った。

初めに、中期的な入学総定員について、及び岩手県の学力と大学進学率の向上について、それぞれ小野特別顧問及び鈴木委員から説明した。次に、本県高校生の進学率向上に向けた取り組みについて、事務局から資料に基づき報告した。最後に、学外委員より意見を頂戴した。

## 7 意見・質問に対する回答等

学外委員の意見・質問等に対する学内委員及び事務局等の回答等は、次のとおり。

- 中期計画策定委員会について（審議事項（3）関連）

中期計画について、いままでどのように策定していたのか質問があり、経営会議や教育研究会議等に付議しながら、計画を策定してきた旨回答した。

また、大学の運営事項等が増えていること等から、今後は委員会を作った方が合理的ではないかということ、委員会を作ることについては、既存の会議等に諮ったうえ、学内は了承済みになっている旨説明した。
- 新型コロナウイルスワクチンの接種について（その他（1）関連）

岩手県と県医師会の懇談会について情報共有され、岩手県立大学としても学生への接種について県と調整を進めている旨説明した。
- 情報の教員志望状況と数学の教職課程申請状況について（その他（2）関連）

情報の教員を志望する学生について質問があり、今年度の県採用試験に学部から4名と、学部を卒業して修士を終えて教職を目指す学生がいる旨回答した。

また、数学の教職課程申請状況について質問があり、現在文部科学省に申請しており、早ければ12月に結果が出される旨回答した。
- 看護学部生の県内就職率について（その他（2）関連）

看護学部生の県内就職率について、今以上の向上は見込めるのか質問があり、関東方面の病院のパンフレットやインターネット上で閲覧できる情報が、学生のニーズにマッチした部分が非常にPRされているという現状があるため、県内就職率向上

を図る取り組みとして、医療局ともタイアップし、県内病院のPRする部分が学生のニーズにマッチするような活動を始めた旨回答した。

また、医療局だけではなく、民間の病院等、県内の病院や高齢者施設等、そういったところに早い段階で学生に見に行かせるべきではないかとの意見があり、バスツアー看護学部では取り組んでいるものの、コロナ禍で現場に出向くのが難しい現状があるため、遠隔配信でメッセージを伝えていただく等、いろんな工夫をしつつ今後も取り組んでいきたい旨回答した。

加えて、県立大学における看護学部とその役割について、公立学校における看護学部のミッションを改めて議論し、取り組みを進めていく必要がある旨説明した。

- ソフトウェア情報学部生の県内就職率について（その他（2）関連）  
教員として、情報の専門家がもっと必要であることから、ソフトウェア情報学部生の県内就職先として、情報の教員として地元の生徒に教鞭をとってほしい旨お話があった。
- 女子学生の大学院進学について（その他（2）関連）  
ソフトウェア情報学研究科について、特に女子大学院生の割合が少ないことから、学部の方から女子学生をいれて大学院へ進学してもらえようような取り組みを考えていただきたい旨お話があった。
- 管理栄養士について（その他（2）関連）  
大学の管理栄養士が求められている背景から、県立大学で新たに管理栄養学部等を創る計画を考えていくことはあるか質問があり、現在個別に回答できるものはないものの、中期目標を作る中で、県と議論する必要がある旨説明した。
- 研究に関する業務実績評価について（その他（4）関連）  
研究及び財務に対する評価について、BからAになるよう、全学挙げて取り組んでいただきたい旨お話があった。
- ひめかみ寮の老朽化について（その他（4）関連）  
ひめかみ寮について、建て替える計画はあるか質問があり、現状ではそこまでの計画はないものの、老朽化が進んでいるのは事実であり、仮に建て替える際には学生のメンタルケアにも配慮したものにするなど、どのような寮にするべきか考える必要がある旨回答した。

## 8、意見交換時に交わされた意見等

意見交換時に交わされた意見等は、次のとおり。

- 県進学率向上のために、国立大学ではなく県立大学に望む役割について  
国立大学とは違う、県全体の進学率向上に対しての役割を果たしてほしいという思いがあり、大学自体を身近に感じてもらえるような取り組みを進めてほしい旨お話があった。  
また、岩手県の家計状況が進学率の低さに結びついているという話が出ている事から、大学独自にお金を集めて基金を作って、進学を後押しするような取り組みに活かす等、家計への不安を軽減させ、大学に進学してみたいという希望をもった子供たちを増やして欲しい旨お話があった。
- 県立大学のブランドイメージの発信について  
大学進学率について、岩手県は専門学校へ流れる割合が高いことから、生徒やその保護者については、大学についてのイメージを早いうちから持ってもらい、進路についてもう少し考えてもらいたい旨お話があった。  
そのため、進路指導を行う高校教員への情報提供は本当にありがたいことであり、今後もより県立大学のブランドイメージを早い時期から教えるのがいいのではとのお話があった。
- 奨学金制度について  
文部科学省の奨学金制度は規制が厳しく生徒から見ると煩雑になりがちなことから、もっと分かりやすい奨学金制度にしたうえで、向学意欲のある学生へ奨学金を配ることで、大学進学率は向上するのではないかとのお話があった。

以上